

# 言葉で学ぶカタカナ ～カタカナの定着に向けて～

伊藤正統 | 広島大学附属三原小学校

## 1. はじめに

一年生は、平仮名を学習した後に片仮名を学習する。しかし、学年が上がっても「ツ」「シ」「ソ」「ン」が書き分けられなかったり、「ヲ」が書けなかったりすることがよくある。また、小学において「ヒ」が正確に書けない学生も多かった。そこで、片仮名の定着をねらった学習について提案したい。

## 2. 五十音表を活用した取り組み

五十音表の活用として、以下の2つのパターンを考えた。

①上欄に片仮名の五十音表、下欄に空欄のマス目を設けたワークシートを用意し、上欄の片仮名に対応して片仮名を書かせる。

②上欄に平仮名の五十音表、下欄に空欄のマス目を設けたワークシートを用意し、上欄の平仮名に対応して片仮名を書かせる。

今回は、①の方法で、言葉に着目した片仮名指導を試みた。

## 3. 言葉に対応した片仮名練習

片仮名の練習においては、下欄のマス目に上欄の五十音表と対応した場所に片仮名を書かせる。その際に、まず、一語の言葉を取り上げる。

子どもに、「一語で表せるものは何ですか」と尋ねる。最初、答えにくいようであれば、「ウ～」と指で何か飛ばしぐさを見せながら、「何でしょう」と尋ねることで、「カ(蚊)」であることを導く。そして、「カ」を書かせた後に、「『カ』のように一語で表せる片仮名を探してみよう」と探させる。すると、子どもが「イ(胃)」「エ

(絵)」「キ(木)」「メ(目)」「チ(血)」「テ(手)」「ハ(歯)」「ヒ(火)」「ミ(実)」「ヤ(矢)」とどんどん挙げるようになるので、それらを書いていくようにする。書いていく際には、「ここは止めるよ」とか「ここは払うよ」と、片仮名を書く際のポイントを押さえるようにする。

一語の片仮名が書けたら、次は二語の片仮名に挑戦する。すると、子どもは、「ソラ(空)」「ハナ(鼻)」など挙げるようになるので、それらを書いていくようにする。既にも書いている片仮名と重複するようであれば、書けなかったり、なぞり書きさせたり、工夫して取り組むようにする。

ある程度書けたら、「『ソラ』や『ハナ』は、ふつうは平仮名で書くのだけれど、片仮名で書く言葉を知っているかな」と聞く。そうすることで、平仮名で書く言葉と片仮名で書く言葉の使い分けができるようにしていく。また、生物は片仮名で書くことを伝えることで、第3学年以降の理科の学習につなげていく。理科では、生物の名前は片仮名で記していくが、なかなか定着しないからである。

時間に余裕があれば、さらに三語の言葉、四語の言葉とつなげていく。さらに、五十音表に濁音や半濁音の文字を加えると、言葉の幅を広げることができる。

## 4. おわりに

市販の片仮名の練習帳では、順番に「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」と書かせていくことが多い。単体で文字を練習していくことも大切だと思うが、子どもの記憶に留め、使える片仮名にしていくためには、言葉で片仮名を用いたり、片仮名を使う場面に気を付けたりしていくことが大切だと考える。片仮名を指導した事実だけで終わらない、子どもの力になる片仮名指導を心がけたい。